

BYOD(Bring Your Own Device)のためのパソコンの推奨仕様について

2023 年度より本学では自律的に学ぶ力を育成するために、ノートパソコン等を持参して学ぶ BYOD (Bring Your Own Device)を推奨しています。

遠隔授業の受講、レポートやプレゼンテーション資料の作成、学習支援システム(LMS)を活用した予習・復習、学修ポートフォリオ活用や e-Learning を用いた自学自習、日常的な学習活動など、様々な場面においてパソコンを活用していきます。

機器をご準備いただく場合、次に示す「推奨仕様」を参考に、お手持ちの機器をご利用いただくか、新規購入をご検討ください。

1. パソコンの推奨仕様

形状	ノート型 PC やタブレット型 PC など、持ち運びが可能であること
重量	軽量かつ薄型であること ※毎日持ち運ぶのであれば、1.3kg程度以下をお勧めします
無線 LAN	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac/ax、Wi-Fi4以上 のいずれかに対応
バッテリー駆動時間	バッテリーが劣化する4年後でもフル充電後に8時間程度利用可能 ※カタログ値 12～16時間程度以上 ※バッテリー交換可能な機種であればカタログ値で9～10時間程度以上 (2年程度でバッテリー交換を想定)
OS(オペレーティングシステム)	Microsoft Windows 11 以降 ※コンピューターの操作に習熟していない場合、授業用途で使用するPCに macOS は避けましょう
CPU	Windows11が動作する Intel、または、AMD CPU ※ <u>QualcommのSnapdragon搭載PCは、学内での印刷や一部アプリケーションが非対応のため、推奨しません</u>
メモリ	8～16GB以上
ストレージ	SSD(ソリッド ステート ドライブ) 256GB 以上 ※HDD(ハード ディスク ドライブ)搭載製品は、速度、消費電力、耐衝撃性においてお勧めしません
ディスプレイ	11～14型程度(見やすさと重量のバランスがとれたもの)
キーボード	レポート作成などを考慮し、キーボード(物理的なキーボード)が利用可能であること(着脱式や外付けのキーボードでも可)
Webカメラ	内蔵カメラ(+内蔵マイク)があること ※外付けカメラ(マイク付き)でもよいですが、持ち運びのし易さから内蔵型をお勧めします

※参考:最下限 PC 要件

…下記要件は、利用できる PC の下限です。このスペックでは、仕様上動作はしますが快適な動作は望めません。ご注意ください。

Windows 11 で Microsoft Office 2021 が動作すること

(CPU:1 ギガヘルツ(GHz)以上で 2 コア以上の 64 ビット互換プロセッサ、メモリ:4GB 以上、ストレージ:64GB 以上、画面解像度:1280 x 768 以上、その他:遠隔授業のための Web カメラがパソコンに内蔵、もしくは取り付け可能な外付け Web カメラを所有している。)

2.ご家庭のインターネット環境

—— よくあるご質問:「どんなパソコンを準備すれば良いのでしょうか」 ——

どの程度のスペックのパソコンを準備すれば良いかは、パソコンで何をするのか、によって変わります。「推奨仕様」は授業で使用するにあたって差しさわりのないスペックを挙げていますが、多少上下しても大きな問題はありません。すでに「推奨仕様」に近いパソコンをお持ちであればそれを使用しても構いません。また、もし課外活動や趣味でパソコンを活用する予定があるのであれば、より性能の高いものを選択するのも良いでしょう。

どちらにしても、パソコンも 4～5 年が経過してくると、それ以降故障の確率が高くなってきます。それまでの期間、「そのパソコンで何をするか」、を念頭におきながらパソコンを選択して下さい。

ご自宅のデータ通信環境については、利用制限のないインターネット接続環境を推奨します。遠隔授業にはリアルタイム講義など各種動画の配信が含まれるものがありますので、ご自宅で受講する際には、無制限に利用できる光ファイバーなどのインターネット接続環境があることが望ましいでしょう。スマートフォンの最低限のデータ通信契約では通信量をまかなえない可能性がありますのでご注意ください。

なお、大学内は Wi-Fi 環境が整備されていますので機器を登録すれば利用可能です。

以上

西南学院大学 情報処理センター